



大勢の人が参加した閉校式



建立された記念碑と分校最後の児童たち



最後の卒業生の内山亮麻くん

「さよなら瀬分校」

133年の歴史に幕！

在校生や卒業生らが最後のお別れ

平成20年3月で閉校となる厳原町の豆酸小学校瀬分校で3月23日、閉校式が行われました。瀬分校は明治8年に創立されて以来、133年の歴史を歩んで来ましたが、少子化、過疎化による児童数の減少等により本校へ統合することになりました。閉校に先立って行われた3月19日

の卒業式では、分校最後の卒業生となった内山亮麻くんが瀬川良治校長から卒業証書が手渡され、歴代の卒業生ら約150名が参加した閉校式では、出席者全員で校歌を斉唱し分校に最後の別れをしました。

木造の味わい深い校舎も2、3年の内に解体される予定で、いつまでも分校を忘れないようにと、地区の人たちは校庭の隅に記念碑を建立。閉校式に続いて除幕式が実施されました。

隠れた対馬の名所を巡る

対馬 HOT SPOT



豊玉町唐洲の妙見神社

妙見神社と佐野漁師

(豊玉町唐洲)

の漁業権を得ることができました。佐野漁師は、62の浦で漁を行い、その中に唐洲浦も含まれていました。唐洲浦は有数の漁場として知られ、大漁祈願などの意味合いも込めて神社に灯籠を奉納したのではないかと考えられます。

今月の「HOT SPOT」は読者からいただいた情報をお届けします。

寄せられた情報は、豊玉町唐洲にある妙見神社に鯛組が奉納した灯籠についてでした。

「鯛組」とは、佐野鯛網船団のことです。佐野鯛網の「佐野」は、泉州佐野から来ています。泉州といえは現在の大阪府です。なぜ対馬に大阪府に関係するものがあるのか不思議に思いませんか？時代は豊臣秀吉が朝鮮出兵する頃までさかのぼります。兵士の食糧確保のため、豊臣秀吉が泉州から漁師を連れてきたのが始まりです。彼らは食糧確保だけではなく、対馬から朝鮮半島までの水先案内・資材運搬等も行っていたようです。その功績が認められ、対馬で

余談ですが、上対馬町泉の地名は、旧名を「志古利」といいますが、いつのころからか、今の名前と呼ばれるようになります。これは、一説によると佐野漁師が根拠地を志古利におき、自分の国の名に因んで、「泉」と呼ぶようになったといわれています。

【お知らせ】

観光交流課では、みなさんからの情報をお待ちしております。こんなところがあるよ、などの情報がありましたら、ドシドシお寄せください。

対馬市役所観光交流課

0920(53)6111

FAX 0920(53)6122

メールアドレス

asightseeing@city-tsushima.jp